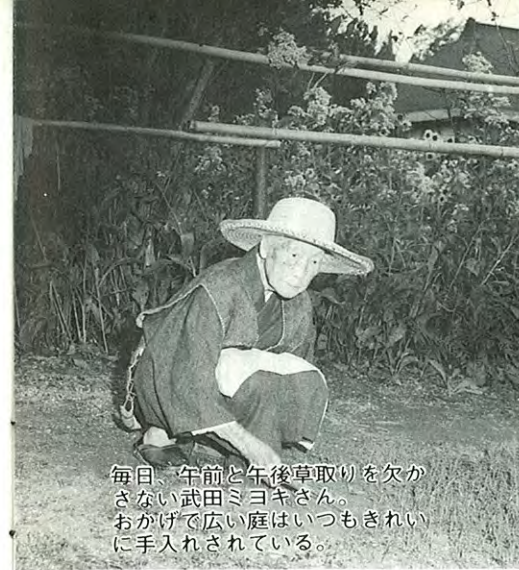




昭和56年オープンした宇土市西部老人福祉センターは地域の老人活動の拠点としてフル回転している。



毎日午前と午後草取りを欠かさない武田ミヨキさん。おかげで広い庭はいつもきれいに手入れされている。

全国の高齢人口がその数値に達するのは六五年と推計されているのに比べると実に十年も先行していると見られています。

このような高齢化社会への対応として、県では①生きがい対策 ②ねたきり・一人暮らし老人対策 ③福祉施設の整備 ④健康と医療対策などの老人福祉対策の充実や高齢者雇用対策の推進に努められています。

### 老いてなお学習意欲

宇土半島のちようど中ごろ、宇土市下網田町にある宇土市西部老人福祉センターには、踊り、盆栽、囲碁など地元の老人会の会員による自主運営のクラブが十一あり、月二回開催されています。当日はお弁当持参で朝から参加される方もあり、この地域の高齢者の半数が会員だそうです。

その中で吟詠をなさっている前田さんは「顔のシワはよっても心のシワは延ばしたい」「センターは憩いの場ではなく勉強の場にした」と、とても八十二歳とは思えない前向きな若々しい言葉が次から次へと飛び出して来ます。

一方、五十畳の明るい大広間では近く行われる地域の行事にそなえて



### ママさん特派員の 県政ルポ ●落合典子

## 豊かな老いを願って

### 百三歳でなおかくしゃくと

「洗濯も裁縫も自分の物は自分でやりますよ」と家族の方がおっしゃるご当人、武田ミヨキさんは、この十月に百三歳の誕生日を迎えられます。

下益城郡中央町に七十九歳になられるご子息の信雄さんご夫婦と三人でお暮らしですが、今なお庭の草取り、仏間や土間の清掃など家事の役割分担の一つを受け持ち、他の家人が草でもとろうものなら、私の仕事をとり上げたとおっしゃる程お元気

です。

現在県下では、百歳以上の方が五十四名いらっしゃいます。この一年間に新しく百歳になられた方が二十三名（男七、女十六）すでに百歳を越した方が三十一名（男六、女二十五）となっていて、去る敬老の日には県から記念品などが贈呈されました。

日本は高齢化社会に向かっていくと言われていますが、そういう状況の中で熊本県ですでに昭和五十五年（六十五歳以上）の人が総人口の一・八%を占めています。



皆さん健康で楽しく暮らしている竹田さん御一家。毎食酢の物を欠かさないことが長寿の秘訣だそうです。



宇土市西部老人福祉センターでの踊りの発表会

浴衣がけで踊りの練習に余念がありません。「私達は、昔の老人に比べて年金はあるし、自由に外出でき、とても幸せです」「すべての事を忘れて、一生懸命になれるものを持つのが生きがいです」と踊りの手を休めて話すのもどかし気に輪の中に加わって行かれた江口さん。とても六十代、七十代の人々の集まりとは思えない華やいだ雰囲気につつまれていました。

この様に地域の老人に対して生活・健康相談などに応ずると共に、教養の向上・レクリエーションのための便宜を提供する老人福祉センターは県下に十九か所、老人憩いの家は九十七か所設置されています。

それぞれ施設でそこに住むお年寄りの方々が利用されています。